

NPO法人

# 元気おおとよ新聞

2013春 創刊号

☆ホームページ genki-otoyo.org  
☆E-mail info@genki-otoyo.org

# 元気おおとよ 新聞 創刊!

特定非営利活動法人 NPO法人「元気おおとよ」は、大豊町を元気にするまじづくりを目的に平成24年4月23日に設立、同8月4日に県の認可を受けた市民活動団体です。平成24年度はラミーキューブ大会や森林シンポジウムを開催するなど、少しずつ活動の輪を広

げています。今回創刊した「元気おおとよ新聞」は、当団体からのお知らせや活動の情報発信を目的に年4回発行していく予定です。ぜひご一読いただき、私たちの活動に興味を持っていただければ幸いです。

## おおとよを 元気に!

かつては、農業・林業が栄え、歴史ある郷土を誇りに思い慎ましいながらも豊かな暮らしがありました。しかし時代は移り変わり、経済は衰退、人口減少には歯止めがきかず、「限界集落」を多数かかえる町になってしまいました。それでも必死に暮らす人たちがいます。大豊町が気になって移住する人たちがいます。十年、二十年先も明るく楽しく暮らすために、私たちができることは何でしょうか?自分たちの町をもっと知りましょう...自分たちの町に誇りを持つために。自分たちの町を体験しましょう...昔ながらの

文化・風習を次の世代に受け継ぐために。地域を超えて、世代を超えて交流しましょう...人の絆をより深いものにするために。

新しい出会いに臆病にならないでください...いろいろな価値観に触れることによって、可能性が広がります。NPO法人「元気おおとよ」は、自分たちが住みやすい町を自分たちの手で作り上げていくために、住人自らが発足した団体です。それぞれの地域集落を大切にしながら、大豊町全体の発展を目標にしています。一人より二人、二人より三人、たくさんの方が支えあう素敵な町づくりに参加しませんか? 理事長 野田由美子

## 森林シンポジウム開催

1月27日NPO法人元気おおとよ主催の「おなたの山の木、お金になる? ならない?」というテーマで、ワークショップ形式のシンポジウムを開催しました。当日は30名あまりの参加者が熱心に議論に加わり、大変盛り上がりました。先ず高知大学農学部森林学科の松本先生から話があり、現状の手入れがされない森林が放置されると、山や木材価値が著しく低下し、山下の民家や生活道に被害を及ぼす話や、シカの食害や虫害の報告がされ、今こそ森林の整備が大切であると強調されました。松

本先生と森林所有者のトーク後、森林組合長の稲田氏からは大豊製材創業に伴い、職員も増やし、伐採後の造林にも力を入れ、個人の山の管理に積極的に関わっていくという話でした。参加者全員によるワークショップ(グループ討議)では、山の現状について場所や境がわからない、由の手入れができていない、植林、育林シカの食害対策ができていない、木材価格が安いなどの意見

が出されました。高知おおとよ製材稼働による影響についてプラス面では「由への関心ができ山の手入れが進む」。木材利用の幅が広がる「ハイオマス発電等」、雇用の拡大が期待できる」といった意見。マイナス面では「切り出しのいいところだけ買われるのではないか」、少面積所有者、小規模事業者(山師)、製材業者に不利、皆伐放置される恐れがあるなどのことが話し合われました。

参加者からは、今後も山の問題だけではなく大豊町の将来についてもっと話す機会を作って欲しいと云う意見が出されました。みなさんの希望に添えられるよう努力しようと思っております。理事 渡辺則夫

## 編集後記

さて、創刊号はいかがでしたでしょうか?実際に作ってみると案外文字ばかり多くて固い感じになってしまったことがわかりました。今回はコラムも用意していたのにスペースがなくて入りませんでした。涙)次回からはもっといろいろな記事が入るように編集をがんばりたいと思います。次回をお楽しみに! 事務局)

